

バス停からの 小さな旅



14 「蜂屋交流センター西(フルーツ線)」から 瑞林寺の地蔵菩薩を訪ねて

現在の瑞林寺の東北のやや奥まったところに、瑞林寺の末寺で明治初めに廃寺となった、大興寺というお寺がありました。瑞林寺にある大仏の「木造弥勒仏坐像」はかつて、この大興寺にあったものです。

元禄11(1698)年、大興寺に残されていた仏頭をもとに、大仏を再興する動きが出て、京都の仏師に修理を依頼し、翌年に完成。その後、宝永元(1704)年に大仏を本格的におさめる弥勒堂の建設が始まりました。享保の時代には、多くの参拝者があったよう、そこへ向かう道しるべとして、瑞林寺にこの地蔵菩薩が作られました。

地蔵菩薩は、高さ約90センチで「享保十五年 従是弥勒堂江二丁(これより弥勒堂へ二丁)」と刻まれており、ここから約220メートル先のところに弥勒堂があったということが分かります。

道の端で、何気なく見かける地蔵菩薩は、親しみを込めて「お地藏様」と呼ばれています。行き先や目的の地までの距離などを示す道しるべとして、当時の人たちの暮らしを現代の私たちに伝えてくれます。



今回乗車したバス

行き フルーツ線

・Aコース 3便

帰り フルーツ線

・Bコース 4便

09時53分 美濃太田駅北口

10時07分

蜂屋交流センター西

下車後、瑞林寺付近を

散策

12時02分

蜂屋交流センター西

12時15分 美濃太田駅北口



▲瑞林寺境内の地蔵菩薩

▲瑞林寺の門の西側にある地蔵菩薩